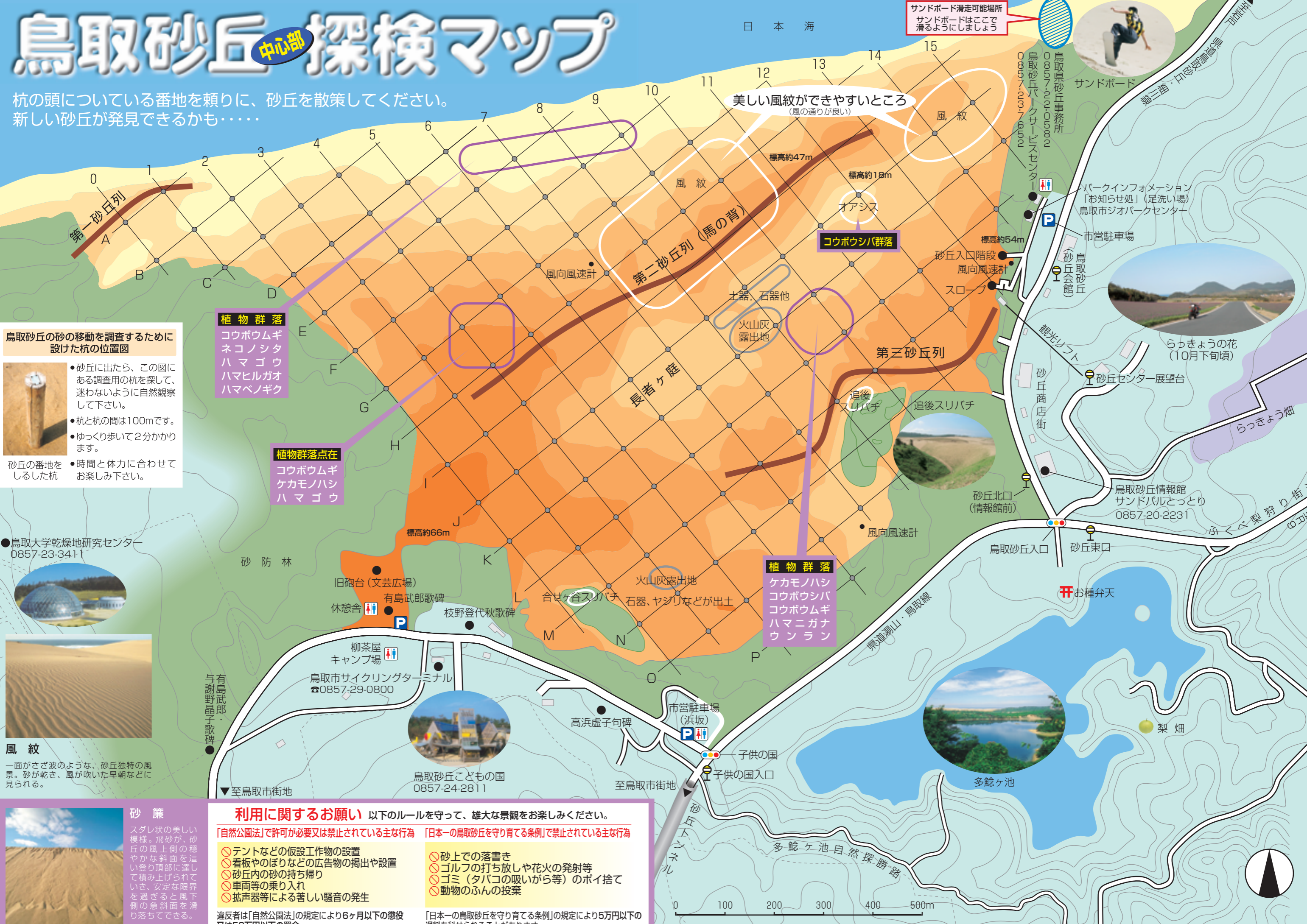


鳥取砂丘探検マップ

杭の頭についている番地を頼りに、砂丘を散策してください。
新しい砂丘が発見できるかも……



鳥取砂丘の砂の移動を調査するために設けた杭の位置図

- 砂丘に出たら、この図にある調査用の杭を探して、迷わないように自然観察して下さい。
- 杭と杭の間は100mです。
- ゆっくり歩いて2分かかります。
- 時間と体力に合わせて楽しみ下さい。

植物群落

コウボウムギ
ネコノシタ
ハマゴウ
ハマヒルガオ
ハマベノギク

植物群落点在

コウボウムギ
ケカモノハシ
ハマゴウ

植物群落

ケカモノハシ
コウボウシバ
コウボウムギ
ハマニガナ
ウンラン

●鳥取大学乾燥地研究センター
0857-23-3411

風紋

一面がさざ波のような、砂丘独特の風景。砂が乾き、風が吹いた早朝などに見られる。

砂簾

スタレ状の美しい模様。飛砂が、砂丘の風上側の穏やかな斜面を這い登り頂部に達して積み上げられていき、安定な限界を過ぎると風下側の急斜面を滑り落ちてできる。

利用に関するお願い 以下のルールを守って、雄大な景観をお楽しみください。

<p>「自然公園法」で許可が必要又は禁止されている主な行為</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ テントなどの仮設工作物の設置 ○ 看板やのぼりなどの広告物の掲出や設置 ○ 砂丘内の砂の持ち帰り ○ 車両等の乗り入れ ○ 拡声器等による著しい騒音の発生 	<p>「日本一の鳥取砂丘を守り育てる条例」で禁止されている主な行為</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 砂上での落書き ○ ゴルフの打ち放しや花火の発射等 ○ ゴミ（タバコの吸い殻等）のポイ捨て ○ 動物のふんの投棄
---	---

違反者は「自然公園法」の規定により6ヶ月以下の懲役又は50万円以下の罰金
「日本一の鳥取砂丘を守り育てる条例」の規定により5万円以下の過料を科せられることがあります。

サンドボード滑走可能場所
サンドボードはここで滑るようにしましょう



美しい風紋ができやすいところ
(風の通りが良い)

サンドボード



らっきょうの花 (10月下旬頃)



らっきょう畑



追後スリバチ



多鯰ヶ池



鳥取砂丘の草原化と 除草の取り組み

鳥取砂丘は鳥取平野の海岸部に東西16km、南北2.4kmにわたって広がる海岸砂丘の総称です。鳥取砂丘といえば砂一面の風景が浮かびますが、1970年（昭和45年）ごろから砂丘に本来生えていない外来植物が目立ち始め、砂の移動が減少して美しい風紋や砂簾が見られにくくなったり、砂丘本来の美しい景観を損ねたりするなど、砂丘の草原化が深刻な問題になりました。

環境庁（当時）は調査の結果、「現在の鳥取砂丘は海からの砂の供給はあまり期待できない、現在堆積している砂を活用し、砂が動きやすい環境を整えるために除草する。」との方針を示しました。

その後、除草実験の結果を踏まえ、鳥取県、鳥取市及び福部村（合併して現鳥取市）では平成6年から本格的に除草活動を開始、継続しています。除草作業の進展に伴い今では砂丘本来の姿を取り戻しつつあります。平成16年からはボランティアでの除草も始まり、県民との協働で砂丘を守る取り組みが進んでいます。



草原化の状況(平成3年6月撮影)

ボランティアによる除草

ボランティア除草

毎年、7月から9月上旬にかけて、主に金、土、日曜日の早朝の時間帯に実施しています。

写真は、平成21年8月に1日としては過去最大の500人規模で実施した際、知事夫妻を囲んでの記念写真です。



【ボランティア除草の実績】

年度	実施日数	参加延人数	面積(ha)	除草量(kg)
16	14	371	12.0	1,713
17	16	904	16.0	3,080
18	23	2,117	20.3	6,920
19	20	3,207	28.7	6,438
20	25	3,309	44.8	5,981
21	23	3,708	43.7	7,360

※アダプトプログラムを含む。

○除草ボランティアについての問合せ先:鳥取砂丘再生会議事務局 (☎0857-22-0582)



アダプトプログラム

ボランティア除草の取り組みをより市民レベルの活動に定着させ、持続的なものとするため、平成18年からアダプトプログラム(一定の区域を里親のように責任を持って担当する仕組み)を導入実施しています。

現在では、次の11団体がこの取組に参画しています。

- アサヒコンサルタント(株)
- 積水ハウス(株)鳥取支店グループ
- サイトウコンサルタント(株)
- 日本学生フライヤー連盟関西支部
- ライツライン(株)
- 鳥取砂丘を考える会
- 大山日ノ丸証券(株)
- 鳥取中央ロータリークラブ
- 国立大学法人鳥取大学
- 鳥取市
- 鳥取県

砂丘に生育する植物(砂丘植物)

鳥取砂丘内の16種類の在来植物のうち、主なものを紹介します。



コウボウムギ(カヤツリグサ科)
砂が積もる場所に大群落をつくり、砂丘内に最も多く分布する。枯れると葉の繊維が筆ようになる。



ピロードテンツキ(カヤツリグサ科)
大抵の植物群落に生育する。葉はピロード状の微毛に覆われ水分の蒸散を防ぎ、硬い根が長く伸びている。



オニシバ(イネ科)
横にはう地下茎の節々から地上茎をだす。硬く細い葉をもち、吹きつける風と砂に抵抗している。



ハマニガナ(キク科)
やわらかい地下茎を直線的に伸ばし、葉だけが砂の上に広がる。春と秋に可憐な黄色い花をつける。



ハマヒルガオ(ヒルガオ科)
海岸部の砂堤や砂の移動の少ないスリパチの壁面などに見られる。初夏にアサガオのような花をつける。



コウボウシバ(カヤツリグサ科)
オアシス周辺や乾燥しにくい場所に生育する。花穂の上部に雄花、根ぎわに雌花をつける。



ハマゴウ(クマツラ科)
砂丘地唯一の匍匐性木本植物で、茎を砂の上や砂の中に長く伸ばす。夏に花をつける。



ケカモノハシ(イネ科)
砂の移動の激しい場所から内陸部に点在する。背が高く、穂が縦に二つに割れて目立ちやすい。

注:砂を固定化し、砂の動く「生きている砂丘」を阻害する恐れがある区域については、砂丘植物も除草の対象となることがあります。

砂丘に侵入する雑草群

鳥取砂丘に侵入する雑草群のうち、主なものを紹介します。



オオフトバムグラ(アカネ科)
北アメリカ原産の帰化植物。7月から9月にかけて白から淡紅色の花を咲かせる。



コマツヨイグサ(アカバナ科)
2年草で茎は40センチメートルぐらい。地表を横に枝分かれしながら伸びる。夏から秋に黄色い花が夕方を開き翌日にしぼむ。



メヒシバ(イネ科)
道端などにふつうに見られる一年草。畑の雑草として嫌われる。夏から秋にかけ、頂上に花序の枝を放射状に出す。



シナダレスズメガヤ(イネ科)
砂防植物として植えられたウイーピンググラスと呼ばれる外来牧草。林縁を中心に残存生育する。



チガヤ(イネ科)
日当たりがよく、草丈の低い草原に群生する多年生の草本植物。



メマツヨイグサ(アカバナ科)
北アメリカ原産。越年生で高さは1.5メートル大にも。黄色の花は2.5~3センチと小さく、茎は多数枝に分かれる。夕方花を開き、翌日の午前中まで咲いている。

出典:鳥取砂丘景観保全調査報告書(H16.3.31、鳥取砂丘景観保全協議会、岩崎氏、清水氏担当箇所)
写真撮影:勸自然公園財団鳥取支部、鳥取砂丘再生会議